

幼稚園・保育園

続 保育のこころもち

▶214

「園の庭」を育てる



秋田

喜代美

学習院大学教授

ある園では、一人一鉢ずつ大豆を育てている。ある子が体調不良で園を欠席することになった。その連絡の電話で保護者が「子どもが『暑いからお休みして水をやらなかったらお豆は大丈夫だろうか』と心配しています」と話し、園は「ちゃんと水をやってお

まれない。園にも保護者にも少し負担になり、大変であっても、保護者に参画してもらうことで当事者意識が生まれ、自分ごとになります」と話をされていた。

「保護者や地域も巻き込みながら『園の庭』としての園庭の植栽や生物を育てていく

なったりすることで、愛着も生まれていく。

池やビオトープにヤゴが育つ。子どもたちは、その小さなヤゴを見つけるのがとても上手だ。手先でつまんだりする加減も、子どもたちは実際の場に関わることで学んでいく。園庭の土も単一ではなく、

子どもの心の成長につながる

きますから大丈夫ですよ」と伝えたという話を伺った。

大豆は親子で一緒に植え、送り迎えの時にその育ちを語り合ったりしながら楽しみに育てている。だからこそ、こうした会話が出てくる。この園の保育者は「園からの情報発信も大事ですが、それだけでは、このような気持ちは生

ことが、子どもの心を育てていくことにつながる」と感じることは多い。園庭の植栽は、すぐに育ったり変わったりはしない。教職員みんなで「こんな園庭になるといいね」と語り合い、子どもや保護者と共に園庭のさまざまな場所に名前を付けたり、いろいろな道具が加わって遊びの拠点に

場所によって違っているの、子どもたちはうまく使い分ける。コンポスト化したり、堆肥作りをしたりする園も増えてきている。時間をかけて園庭を育てている園では、子どもも自然にその恵みを受けて育っていく。

次回は8月1日付掲載